

埋文あらかると

富山の歴史出張プロジェクト

出張埋文センター



出張埋文センターとは

当センターでは、春夏の企画展や秋冬の特別展、「県民考古学講座」、児童を対象とした「わくわく古代チャレンジ」等を開催し、広く県民の皆様に考古学に触れる機会を提供しています。しかし、なかなか当センターまで足を運ぶことができない方々もたくさんいます。

そこで、遠方等の理由で当センターに来館できない県民の要望に応えるのが「富山の歴史出張プロジェクト(出張埋文センター)」です。市町村教育委員会と連携し、地域の遺跡からの出土品を中心に地元住民の方々に広く公開し、ふるさとの歴史や埋蔵文化財への関心をもってもらうことを目的としています。

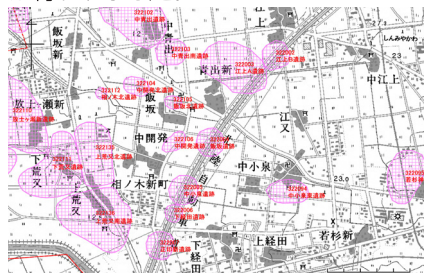
令和最初の 富山の歴史出張プロジェクト

11月6日(水)に上市町宮川公民館において、「富山の歴史出張プロジェクト・イン・上市」と題して開催しました。



会場の様子

宮川公民館の近くを通る北陸自動車道の建設にあたり、1979年に弥生時代後期の集落遺跡である「江上A遺跡」をはじめ、いくつもの遺跡の発掘調査が行われました。



上市町宮川地区周辺の遺跡地図

このため、地元の希望もあり、江上A遺跡の出土品を中心に、弥生時代の土器や木製品、銅鏡などを展示し、出土品解説や土器づくり等を行いました。

●「遺跡・出土品解説」



普段目にしない遺跡や出土品はけっして馴染み深いものとは言えません。しかし、それらをもっと身近に感じ、興味関心をもってもらうことができるのが、この「出張埋文センター」です。土器等の出土品や地図等、実物を提示しながら分かりやすくガイダンスを行いました。



まず、富山県には約4,200もの遺跡があり、地元の江上地区や中小泉地区等、公民館周辺にも数多くの遺跡があることを写真や地図を示しながら説明しました。また、等尺年表を使い、江上A遺跡の人々が暮らしていた弥生時代は今からどれくらい昔の時代なのかを捉えられるようにしました。

次の出土品解説では、地元で発掘された土器や木製品の農具、銅鏡、コメやモモの種等を見せながら、弥生時代の生活について説明しました。出土品を通して弥生時代の人々の生活の様子がイメージをもつことができたようです。

●「出土品に触れる体験」



土器や木製品、銅鏡、食べ物等、実際に出土品に触れながら観察する体験を行いました。普段博物館等で展示ケース内に展示され、触ることのできないはずの出土品が手に取り間近で観察できるのも、この「出張埋文センター」ならではの特権。参加者は実物に触れることができたことに感激していました。

●「土器づくり」



一人一人が自分だけのオリジナル土器をつくる体験をしました。

既存のイメージに捕らわれず、自由な発想で形や模様を決めてつくりました。

世界に一つしかない自分だけの作品に上がり、参加者は大変満足していました。

おわりに

当センターでは、「出張埋文センター」に限らず、通年で出前授業を行い、様々な場面で学習支援を行っています。

学校での歴史学習だけでなく、PTA親子活動や公民館や児童クラブ行事等にも対応できます。また、今回紹介した以外の活動メニューもあります。興味がありましたら、お気軽に当センターへお問合せください。ぜひ、お待ちしております。

(小嶋 剛)